

# 平成 8 年の病害虫の発生と防除

## 農林水産省農産園芸局植物防疫課

### I 夏作期間の気象経過の概要と水稲の作柄

#### 1 夏作期間の気象経過

本年の春は、全国的に低温、特に4月は西日本では記録的な低温、5月は北日本と南西諸島で顕著な低温で推移し、東日本太平洋側と西日本で少雨、多照、北日本、南西諸島で寡照であった。

沖縄と奄美は4月下旬後半、九州南部は5月下旬に平年より早めに梅雨入りした。九州北部から東北部は6月上旬後半に一齐に梅雨入りした。これらの地方の梅雨入りは、九州から関東ではほぼ平年の時期、北陸と東北部では早めであった。東北部は6月中旬前半、平年とほぼ同じ時期に梅雨入りした。梅雨前線は6月には日本海側で活発となり、7月は南岸で一時活発となった。7月は東日本以西では太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多かった。一方、北日本は6月以降低気圧や前線の影響を受ける日が多かった。7月上旬と8月上旬・下旬には北偏した冷たい高気圧が北日本方面を覆い、本州の南海上は台風を含む大きな低圧部となって、北・東日本は寒気や北東気流の影響を受けた。梅雨前線や台風の影響と雷雨の少なかった東日本の太平洋側と太平洋高気圧に覆われた南西諸島では少雨となった。北・東日本は期間を通して、気温の変動が大きかった。梅雨明けは、沖縄は

6月上旬後半、奄美は6月下旬前半、いずれも平年より早めに梅雨明けした。九州から関東甲信までは7月中旬前半、一齐に梅雨明けした。これらの地方の梅雨明けは、九州南部はほぼ平年の時期、その他の地方では早めであった。北陸は中旬後半に平年より早めに梅雨明けした。東北部は下旬前半で平年並み、東北部では8月上旬後半、平年より遅めに梅雨明けであった。梅雨の時期の降水量は、全般的にほぼ平年並み程度であったが、西日本の鹿児島、高松、大阪及び北日本の青森は平年値をいくぶん上回り、その他の地方はいくぶん平年を下回っている。

本土に接近した台風は第5号、6号、9号、12号で、第6号と第12号は上陸した。

9月に入ると、本州付近に寒気が入りやすく、東日本と西日本の一部では月を通して気温が低めに経過した。北日本では8月後半から9月上旬まで低温傾向が続いたが、その後は高温傾向に変わった。

#### 2 水稲の作柄

10月15日現在の水稲の作柄は、北海道及び東北では、全刈数は、田植期以降7月下旬までの断続的な低温・日照不足により少ないしやや少なかったものの、登熟は、出穂期以降は天候に恵まれ日照や気温日較差もあり、適度な降雨により茎葉の枯れ上がりも遅く、例年に

表-1 1996年梅雨の状況

地域名	梅雨入り		梅雨明け		梅雨の時期の降水量(mm) (カッコ内は平年比/(%))
	1996年	平年	1996年	平年	
沖 縄	4月下旬後半	5月中旬前半	6月上旬後半	6月下旬前半	那 覇 497.0( 98)
奄 美	4月下旬後半	5月中旬前半	6月下旬前半	6月下旬後半	名 瀬 410.5( 57)
九州南部	5月下旬後半	6月上旬前半	7月中旬前半	7月中旬前半	鹿児島 938.0(133)
九州北部	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	福 岡 457.0( 89)
四 国	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	高 松 311.5(106)
中 国	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	広 島 388.5( 一)
近 畿	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	大 阪 398.0(110)
東 海	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	名古屋 311.5( 72)
関東甲信	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	東 京 289.5( 93)
北 陸	6月上旬後半	6月中旬前半	7月上旬後半	7月下旬前半	新 潟 265.0( 89)
東北部	6月上旬後半	6月中旬前半	7月下旬前半	7月下旬前半	仙 台 243.0( 86)
東北部	6月中旬前半	6月中旬前半	8月上旬後半	7月下旬後半	青 森 203.5(110)

\*梅雨の時期の降水量としては、6~7月の2か月の降水量を示す。ただし、那覇と名瀬については5~6月の降水量である。

Occurrence of Pests and Diseases and Their Control in 1996 in Japan. By Plant Protection Division, Agricultural Production Bureau, MAFF

(キーワード：平成8年、病害虫、発生動向)

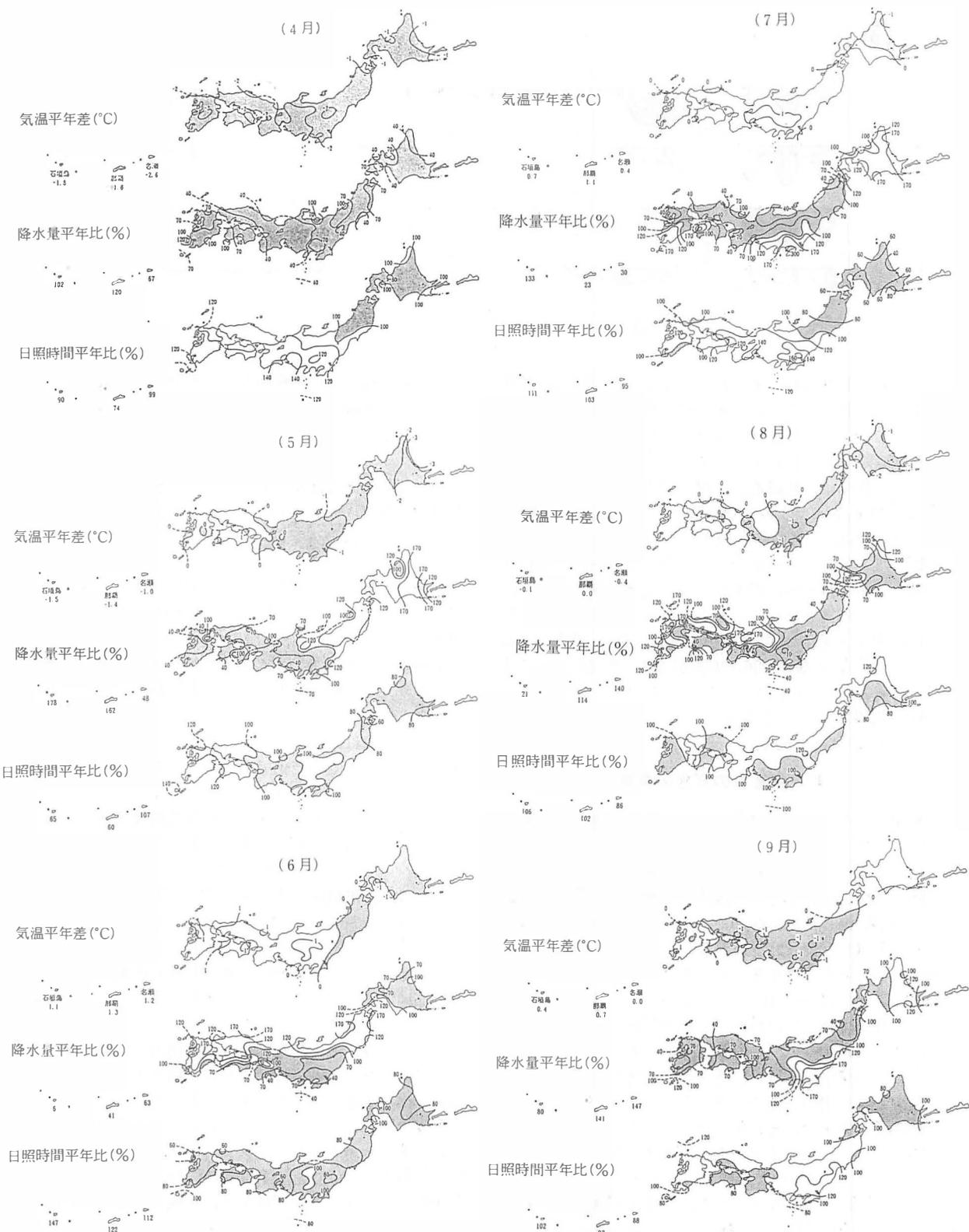


図-1 月平均気温・月降水量・月日照時間の平年差(比)

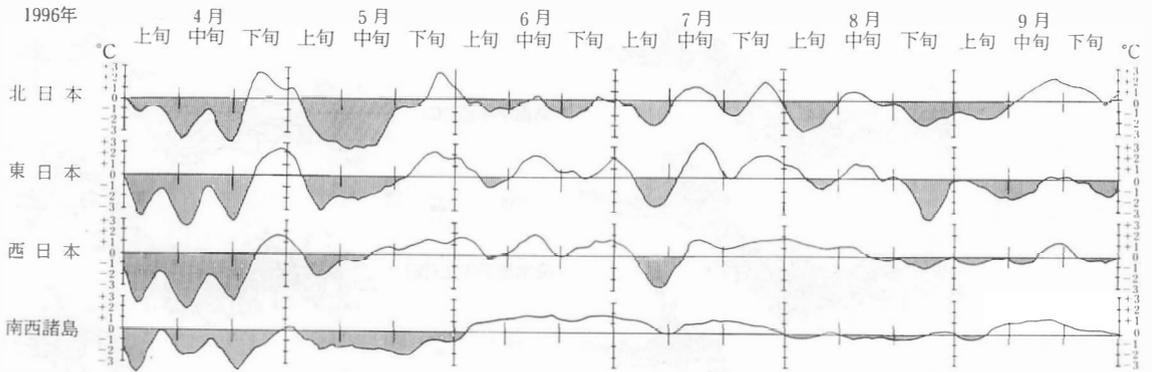


図-2 地域平均気温年差の5日移動平均時系列

なく後期登熟が良好であった。北陸では、全籾数は、初期生育の抑制を強く受けた新潟県でやや少なかったものの、その他の県では年並みないしやや多く、登熟は、出穂期以降はおおむね天候に恵まれたことなどから順調である。作柄は、北海道は作況指数101の「年並み」、東北及び北陸は103の「やや良」である。関東以西では、全籾数は、7月中旬以降8月中旬まで高温・多照で推移したことから年並みないし多く、登熟は、出穂期以降もおおむね天候に恵まれ日照や気温日較差もあり、台風などの被害も少ないことから総じて順調である。作柄は、関東・東山が作況指数109の「良」、東海が105の「やや良」、近畿が106、中国が107、四国が106で共に「良」、九州が104の「やや良」である。全国平均では作況指数104の「やや良」であり、10a当たり収量は524kgが見込まれる。

## II 病害虫の発生の概要

水稻のいもち病は、春先からの不順な天候経過もあり葉いもちが関東を除く広い地域で「やや多」から「多」の発生となった。特に北日本の日本海側と北陸の一部、近畿、中国の山間部では急激なまん延が見られた。その後天気が回復したため病勢の進展は抑制されたが、葉いもちが多発した東北北部、北陸、近畿と、中国四国の一部で穂いもちも「やや多」の発生であった。いもち病に対する注意報は延べ31件が発表された。

ここ数年少発生で推移している紋枯病は、四国及び九州のごく一部の県で「やや多」であったほかは「年並み」以下の発生であった。その他の病害では稲こうじ病が関東及び九州の一部で「多」となったが、それ以外に広範囲に多発生となった病害はなかった。

害虫では、ニカメイガの発生が九州を除く広い範囲で「やや多」から「多」であった。ニカメイガはひとことほとんど問題とならなかったが、近年再び多発傾向にあり、本年も九州を除く各地域で「やや多」から「多」の発生となった。太桿品種の作付けやマコモなど雑草処理

の不徹底、稲わらの再利用などが原因と考えられているが、発生の地域間差が大きく、被害を出すケースも報告されている。

セジロウンカは、梅雨期間に数次にわたる飛来があったが、予防薬剤の普及もありその後の増殖は多くなく、九州の一部で「やや多」の発生にとどまった。一方、トビロウンカは飛来そのものが極めて少なく、「少」発生であった。

斑点米カメムシ類の発生が、全国的に「やや多」から「多」の発生となった。また、イネクロカメムシも一部地域で「やや多」の発生であった。

水稻以外の普通作では、ダイズのアブラムシ類及び吸蜜性カメムシ類の発生が「やや多」から「多」であった。

カンキツでは、ミカンハダニ及びアブラムシ類が「やや多」から「多」の発生であった。一方、病害は特に多発生となるものはなかった。

リンゴでは、関東の一部で斑点落葉病及び腐らん病が「多」、北陸でハダニ類が「多」であったほかは、総じて「年並み」以下の発生であった。

ナシでは、黒斑病の発生が北陸、近畿、中国の一部で「多」、九州の一部で「やや多」であった。害虫ではハダニ類の発生が「やや多」から「多」であった。

モモでは、近年多発傾向にあったせん孔細菌病の発生が一部地域で「やや多」から「多」となった。ハダニ類の発生が「やや多」であった。

ブドウでは、褐斑病が関東及び九州の一部で「多」の発生であった。カキでは、うどんこ病やカイガラムシ類の発生が「やや多」から「多」であった。

果樹に共通のカメムシ類が、春先から盛夏期まで全国的に大発生し、カンキツ、ナシ、モモ、カキなど多くの樹種に被害を及ぼした。平成7年の針葉樹の種子の豊作で増殖したカメムシ類が越冬後、平成8年は山林に餌が不足し、大挙して果樹園に飛来したものと思われる。カンキツ、カキなどでは初期の異常加害により例年にない

表-2 病害虫別発生・防除状況(平成8年10月1日現在)

(単位:千ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
(イネ)				
葉いもち	関東を除きやや多〜多	711(87)	1,720(85)	梅雨明けまでの不順な天候
穂いもち	東北部, 北陸, 近畿, 中国四国の一部でやや多	473(89)	2,359(90)	
紋枯病	四国及び九州の一部でやや多の他は平年並以下	620(83)	1,367(89)	
白葉枯病	九州の一部でやや多の他は平年並以下	19(83)	145(190)	
縞葉枯病	平年並以下	44(63)	—	
ばか苗病	平年並以下	26(63)	1,568(103)	
もみ枯細菌病	一部地域でやや多	86(77)	153(90)	
稲こうじ病	関東及び九州の一部で多	101(79)	49(102)	
ニカメイガ	九州を除いてやや多〜多	312(123)	884(110)	越冬密度高い。イネワラの再利用等
セジロウンカ	九州の一部でやや多の他は平年並以下	785(77)	1,214(88)	数次の飛来波。予防防除の徹底
トビロウンカ	少ない	58(29)	830(87)	飛来量極少
ヒメトビウンカ	一部地域でやや多〜多	705(101)	1,175(104)	
ツマグロヨコバイ	東北, 北関東でやや多〜多の他は平年並以下	686(97)	1,023(94)	
イネドロオイムシ	九州を除く地域の一部でやや多〜多	388(102)	785(101)	
斑点米カメムシ類	やや多〜多	341(109)	1,322(94)	
コブノメイガ	平年並	321(43)	523(83)	昨年多発
イネミズゾウムシ	一部地域でやや多の他は平年並	1,030(95)	1,080(98)	越冬量多
(ムギ類)				
さび病類	平年並以下	15(68)	54(135)	
うどんこ病	平年並以下	92(93)	223(96)	
赤かび病	平年並以下	89(94)	231(113)	
雪腐病	平年並〜やや少	42(145)	83(93)	
雲形病	少ない	1(200)	1(300)	
(ジャガイモ)				
疫病	平年並以下	37(80)	363(85)	
(ダイズ)				
紫斑病	平年並	2(100)	29(131)	
ハスモンヨトウ	やや多〜多	19(90)	40(118)	
ハダニ類	一部地域でやや多〜多	7(78)	1(33)	
アブラムシ類	〃	18(95)	35(109)	
(カンキツ類)				
そうか病	一部地域でやや多	15(86)	88(101)	
黒点病	平年並以下	66(135)	282(106)	
かいよう病	一部地域でやや多の他は平年並以下	12(133)	70(67)	
ヤノネカイガラムシ	平年並以下	6(100)	96(101)	
ミカンハダニ	やや多〜多	77(115)	268(102)	
(リンゴ)				
腐らん病	関東の一部で多の他は平年並	7(88)	110(104)	
モニリア病	少ない	1(100)	89(100)	
斑点落葉病	関東の一部で多の他は平年並以下	26(85)	416(94)	
黒星病	少ない	4(100)	435(95)	
ハマキムシ類	少ない	7(175)	211(88)	
ハダニ類	北陸及び中国でやや多〜多	16(123)	110(100)	
(ナシ)				
黒斑病	一部地域でやや多〜多	2(66)	66(80)	
黒星病	平年並以下	3(75)	130(98)	
ナシヒメシンクイ	〃	1(100)	54(120)	
ハダニ類	平年並〜多	9(90)	48(109)	

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
アブラムシ類 (モモ)	一部地域でやや多	8(100)	49(96)	
せん孔細菌病	一部地域でやや多～多	2(66)	27(100)	
灰星病 (ブドウ)	平年並以下	1(50)	38(95)	
晩腐病	一部地域でやや多の他は平年並以下	2(100)	56(93)	
べと病	平年並以下	5(55)	75(99)	
灰色かび病 (カキ)	一部地域でやや多の他は平年並	2(100)	31(91)	
うどんこ病	一部地域でやや多～多	10(111)	50(100)	
落葉病類	東北でやや多の他は平年並	4(80)	48(104)	
カキグアザミウマ (果樹共通)	一部地域でやや多	5(100)	17(74)	
カメムシ類 <sup>1)</sup>	全国でかつてない異常多発生	68(378)	251(242)	昨年針葉樹種子の豊作。本年度の凶作
(チャ)				
炭そ病	一部地域でやや多の他は平年並以下	33(138)	86(112)	
チャノコカクモンハ マキ	平年並以下	13(100)	63(72)	
カンザワハダニ (キュウリ)	一部地域でやや多～多	24(83)	90(86)	
べと病	一部地域でやや多の他は平年並	7(39)	63(94)	
うどんこ病 (スイカ)	一部地域でやや多	5(71)	53(93)	
つる枯病 (ハクサイ)	一部地域でやや多	3(60)	47(92)	
軟腐病	平年並以下	3(75)	33(110)	
白斑病 (キャベツ)	平年並	4(133)	36(180)	
黒腐病	やや少	4(66)	37(123)	
コナガ (タマネギ)	一部地域でやや多～多	17(94)	83(114)	
べと病	平年並～やや少	2(100)	29(91)	
ボトリチス属菌によ る葉枯病 (野菜共通)	近畿、中国及び九州の一部でやや多	13(87)	—	
疫病 <sup>2)</sup>	平年並以下	5(125)	61(77)	
灰色かび病 <sup>3)</sup>	トマトでは一部地域でやや多	7(88)	81(94)	
アブラムシ類 <sup>4)</sup>	やや多	60(94)	324(99)	
ハダニ類 <sup>5)</sup>	やや多～多	18(90)	81(95)	
ハスモンヨトウ <sup>6)</sup>	やや多～多	9(75)	56(130)	
ヨトウガ <sup>7)</sup>	一部地域でやや多	16(114)	119(116)	

1): カンキツ, ナシ, カキ

2): トマト, ピーマン, キュウリ, スイカ, タマネギ

3): トマト, レタス, イチゴ

4): トマト, ナス, ピーマン, キュウリ, スイカ, ダイコン, ハクサイ, ネギ, レタス, ホウレンソウ, サトイモ, イチゴ

5): ナス, スイカ, サトイモ, イチゴ

6): ナス, レタス, サトイモ, イチゴ

7): ハクサイ, キャベツ, ニンジン, ホウレンソウ

表-3 平成8年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況

(1) 警報・注意報(注:数字は発表月日。\_\_\_\_は警報)

(10月1日現在)

① 稲		葉いもち	穂いもち	セジロ ウンカ	トビイロ ウンカ	コブノ メイガ	その他の病害虫
北海道		7.16					
東北	青森	6.10, 7.12	8.2				3.19-もみ枯細菌病, 苗立枯病 4.19-苗立枯病 7.24-稲こうじ病 8.9-斑点米カメムシ類
	宮城		8.6				
	秋田	7.4, 7.17	8.2				5.31-イネヒメハモグリバエ
	山形	7.17					
関東	群馬						6.14-ニカメイガ 5.15-イネヒメハモグリバエ 7.29-斑点米カメムシ類 8.22-ニカメイガ 8.8-斑点米カメムシ類
	千葉						
	神奈川						
	長野						
北陸	新潟	6.25					6.10-イネドロオイムシ 7.24-斑点米カメムシ類 4.15-苗立枯病
	富山		7.12				
	石川						
	福井						
東海	岐阜						8.8-ニカメイガ 7.30-斑点米カメムシ類
	三重						
近畿	滋賀	7.9					8.6-斑点米カメムシ類
	京都	7.22	7.22				8.13-斑点米カメムシ類 8.8-斑点米カメムシ類
	大阪		7.31, 8.21				
	兵庫		7.16				
	奈良						
中国・四国	鳥取	7.11	7.11				8.2-斑点米カメムシ類
	島根	7.1	7.16				
	岡山	6.28	7.30				8.15-斑点米カメムシ類
	広島	7.2	7.30				8.1-斑点米カメムシ類
	山口	7.10					
	徳島		7.5				
	香川	7.10	7.11				7.31-斑点米カメムシ類 7.11, 8.27-斑点米カメムシ類
	愛媛	6.21, 7.2					
	高知						
九州	福岡						8.23-斑点米カメムシ類 8.12-斑点米カメムシ類 6.21-斑点米カメムシ類
	長崎		7.29			8.12 7.26	
	熊本		8.2			7.31 7.29	6.21, 8.19-斑点米カメムシ類 8.19-斑点米カメムシ類
	大分						
	宮崎						
	鹿児島						
		② 畑作物(稲を除く)			③ 果樹(チャを含む)		
北海道		5.24-小麦眼紋病, 7.5-馬鈴しょ疫病 8.1-豆類菌核病, 灰色かび病					
東北	青森				4.12-リンゴモニリア病 6.26-ぶどう灰色かび病 7.28-果樹全般のカメムシ類		
	秋田						
	福島						
関東	茨城	9.6-ハスモンヨトウ			6.11-ナシのカメムシ類 6.21-果樹全般のカメムシ類, 8.8-ナシ, リンゴのカメムシ類 6.14-果樹全般のカメムシ類 6.7-果樹全般のカメムシ類		
	栃木						
	群馬						
	馬場						
	玉						

	千葉県 神奈川県		5.31-ナシのカメムシ類, 8.5-果樹全般のカメムシ類 6.10-果樹全般のカメムシ類 4.26-ウメ, ナシ, ブドウ等のカメムシ類, 7.26-果樹全般のカメムシ類, 8.29-早生温州ミカンのカメムシ類 6.13-果樹全般のカメムシ類, 7.2-果樹のミカンキイロアザミウマ 5.31-果樹のミカンキイロアザミウマ, 7.25-リンゴ, モモ, カキのカメムシ類 5.7-茶のクワシロカイガラムシ, 5.28-ナシ, モモ, ウメ, キュウイフルーツ等のカメムシ類
北 陸	新潟 石川 福井		8.2-カキのカメムシ類, ももせん孔細菌病 6.13-果樹全般のカメムシ類 7.30-ナシ, カキのカメムシ類
東 海	岐阜 愛知 三重		5.23, 7.18-果樹全般のカメムシ類, 7.3-カキノヘタムシガ 5.29-果樹全般のカメムシ類, 7.19-カキ, ナシ, カンキツのカメムシ類 5.21-果樹全般のカメムシ類, 7.30-果樹全般のカメムシ類
近 畿	滋賀 京都 大阪  兵庫  奈良 和歌山		6.3-ナシ, モモ等のカメムシ類 6.7-果樹全般のカメムシ類, 7.24-果樹全般のカメムシ類 5.28-ウメ, モモ等のカメムシ類, 6.13-イチジクのアザミウマ類, 7.8-モモ, カキ, ブドウ, ミカンのカメムシ類 5.2-ナシ黒斑病, 7.10-果樹全般のカメムシ類, 7.19-ナシ黒斑病, 8.13-果樹全般のカメムシ類 5.7-ウメ, スモモ等のカメムシ類, 5.28, 8.23-果樹のカメムシ類 4.12-ウメ, スモモ等のカメムシ類, 7.11-果樹全般のカメムシ類
中国・四国	鳥取  島根 岡山 広島 山口 徳島  香川 愛媛  高知	8.13-ハスモンヨトウ  9.20-ハスモンヨトウ     9.3-ハスモンヨトウ	5.2-ナシ, モモのカメムシ類, 7.29-ナシ, モモ, カキ, リンゴのカメムシ類, 7.18-カキ, ナシのカメムシ類  7.23-果樹全般のカメムシ類 7.30-果樹全般のカメムシ類 7.17-果樹全般のカメムシ類 5.21-ナシ, モモ等のカメムシ類, 7.22-ナシ, カキ, カンキツのカメムシ類, 9.17-なしうどんこ病 6.6, 8.5-果樹全般のカメムシ類 5.9-ウメ, スモモ等のカメムシ類, 7.18-果樹全般のカメムシ類, 9.6-カンキツ, カキ, キュウイフルーツのカメムシ類 5.7-カンキツ, モモ, ナシ等のカメムシ類
九 州	福岡 佐賀 長崎  熊本  大分 宮崎  鹿児島	9.25-ハスモンヨトウ	3.4-果樹全般のカメムシ類, 7.2-果樹全般のカメムシ類 5.30-果樹全般のカメムシ類, 7.10-ナシ, カキ, ミカンのカメムシ類 4.1-果樹全般のカメムシ類, チャのクワシロカイガラムシ 5.28-果樹全般のカメムシ類, 6.14-イチゴのうどんこ病 7.8-カンキツ, ブドウ, ナシ等のカメムシ類, 9.13-ミカンハダニ 4.3-ウメ, スモモ, ナシのカメムシ類, 6.3-果樹全般のカメムシ類, 9.26-ミカンハダニ 5.16-ナシ, モモ等のカメムシ類, 7.5-果樹全般のカメムシ類, 5.28-落葉果樹のカメムシ類, 7.23-果樹全般のカメムシ類, 9.24-カンキツのミカンハダニ 4.9-ナシ, モモ, ウメ, ビワのカメムシ類, 5.22-ナシ, モモ, ウメ, カンキツのカメムシ類, 7.21-果樹全般のカメムシ類, 9.3-カンキツ, ナシ, カキのカメムシ類
		④ 野菜 (花き類を含む)	
北 海 道		8.1-豆類菌核病, 灰色かび病, たまねぎ灰色腐敗病, 軟腐病	
東 北	岩手 宮城	6.3-アブラナ科野菜のコナガ 7.25-野菜のミカンキイロアザミウマ	
関 東	茨城 千葉 山梨 長野	9.6-野菜のハスモンヨトウ 8.26-野菜のハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ 7.2-ミカンキイロアザミウマ 5.31-花き類のミカンキイロアザミウマ	

北 陸	石 川	6.13-野菜のオオタバコガ
東 海	愛 知	9.4-キャベツ, ネギ, ホウレンソウのシロイチモジヨトウ
近 畿	京 都	6.25-ネギ, 枝豆のアザミウマ類
	大 阪	8.13-オオタバコガ, シロイチモジヨトウ, 9.5-アブラナ科野菜のハイマグラノメイガ
	奈 良	6.25-クク科のミカンキイロアザミウマ
中国・四国	鳥 取	6.26-スイカ疫病, 褐色腐敗病
	島 根	8.13-ハスモンヨトウ
	岡 山	8.15-アブラナ科野菜のハイマグラノメイガ
	山 口	9.20-ハスモンヨトウ
	高 知	9.3-ハスモンヨトウ
九 州	長 崎	6.14-イチゴうどんこ病
	大 分	9.25-ハスモンヨトウ
	宮 崎	9.22-イチゴのハダニ類
	鹿 児 島	9.24-ハスモンヨトウ
	沖 縄	1.8-施設サヤインゲン, レタス菌核病, 2.6-さとうきびのカンシャワタアブラムシ, 4.4-さとうきびのカンシャワタアブラムシ, メロン, トマト, ニガウリうどんこ病 6.4-メロンえそ斑点病, 果菜類のマメハモグリバエ

(2) 特殊報(数字は発表月日)

		① 普通作	② 果樹
関 東	長 野		3.26-西洋なし腐らん病初確認
近 畿	奈 良		4.8-ウメ, スモモのチャバネアオカメムシ異常発生
中国・四国	山 口		6.8-果樹全般のカメムシ類異常発生
		③ 野菜	④ 花き類
北 海 道		6.27-ミカンキイロアザミウマ初確認	6.27-ミカンキイロアザミウマ初確認 10.11-カーネーションハモグリバエ初確認
東 北	青 森	9.2-キャベツのオオモンシロチョウ初確認	3.14-グラジオラスアザミウマ初確認  7.1-トマト黄化えそウイルス初確認
	宮 城	3.14-ニンニクのチュウリップサビダニ, イモグサレセンチュウ初確認	
	福 島	3.14-トマト, イチゴ等ハスモンヨトウ被害拡大 7.1-トマト黄化えそウイルス初確認 9.2-キュウリホモブシス根腐病初確認	
関 東	茨 城	8.7-トマトのトマトサビダニ初確認	
	群 馬	3.21-ミニトマトのトマトサビダニ初確認	
		7.26-ネギのシロイチモジヨトウ初確認	
	埼 玉	7.26-ネギのシロイチモジヨトウ初確認	
	神奈川	9.19-トマトのオオタバコガ初確認 7.26-トマトの萎ちょう病レースJ2初確認	
近 畿	京 都	6.7-ウマゴヤシのアルファルファタコゾウムシ初確認	
	兵 庫	5.10-ハクサイ, ダイコンのハクサイダニ初確認	
中国・四国	鳥 取	6.5-マメ科植物のアルファルファタコゾウムシ初確認	1.5-バラのミカンキイロアザミウマ初確認 8.8-バラのミカンキイロアザミウマ初確認
	徳 島	1.10-ミニトマトのマメハモグリバエ初確認	
	愛 媛	8.8-イチゴ等のミカンキイロアザミウマ初確認	
	高 知	5.30-マメ科植物のアルファルファタコゾウムシ初確認	
九 州	福 岡	7.3-キュウリのスジプトホコリダニ初確認	3.4-宿根カスミソウうどんこ病(仮称)初確認 2.19-宿根カスミソウうどんこ病(仮称)初確認  3.25-宿根カスミソウうどんこ病(仮称)初確認
	佐 賀		
	熊 本	8.12-カキ(ハウス)ミカンキイロアザミウマ初確認	
	大 分	7.29-果菜類のチャバネアオカメムシ被害確認	
	宮 崎	3.25-トマトすすかび病初確認	
	鹿 児 島	4.10-ハクサイ輪紋病初確認 5.1-インゲンハクサイダニ初確認	

被害が発生した。

チャでは、クワシロカイガラムシの発生が一部地域で「やや多」から「多」であった。

野菜では、ピーマンのタバコガ、ネギのネギアザミウマ、サトイモのハスモンヨトウ、イチゴのハスモンヨトウの発生が「やや多」から「多」であった。

### III 病害虫防除事業

#### 1 ウリミバエ

奄美群島：前年に引き続き奄美群島全域において侵入警戒調査を実施した。

沖縄県：前年に引き続き沖縄群島、宮古群島及び八重山群島において侵入警戒調査及び不妊虫放飼による再侵入防止防除を実施した。

#### 2 ミカンコミバエ

沖縄県：前年に引き続き侵入警戒調査を実施するとともに、八重山群島において誘殺剤散布による再侵入防止防除を実施した。

小笠原諸島：前年に引き続き侵入警戒調査を実施した。

#### 3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄及び小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

#### 4 アリモドキゾウムシ

平成2年に発生が確認された鹿児島県西之表市及び平成7年11月に発生が確認された高知県室戸市におけるアリモドキゾウムシについては、緊急防除の省令によりアリモドキゾウムシの寄主植物などの移動を禁止するとともに、発生地域において殺虫剤の散布、野生寄主植物の除去などを実施した。

また、奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてイモゾウムシ及びアリモドキゾウムシを対象にして、不妊虫放飼等による実験的な根絶防除を実施した。

#### 5 ナシ枯枝細菌病

平成7年に発生が確認された北海道のナシ枯枝細菌病菌については、緊急防除の省令により寄主植物などの移動の規制、消毒、廃棄を実施した。

#### 6 天敵増殖配布

果樹の重要害虫であるイセリアカイガラムシ、ルビローウムシ、ミカントゲコナジラムシのそれぞれの天敵であるベダリアテントウムシ、ルビニアアカヤドリコバチ、シルベストリコバチの増殖配布を、前年に引き続き静岡、岡山、長崎の各県でそれぞれ実施した。

### IV 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係実施延べ面積

表-4 平成8年農薬年度農薬出荷状況(推定)

(単位：t, kl, 百万円, %)

用途	7年度出荷 (実績)	平成8年度(推定)		
		出荷	対前年比	
殺虫剤	数量	152,990	152,000	99
	金額	141,661	144,000	102
殺菌剤	数量	102,477	92,000	90
	金額	100,387	95,000	95
殺虫殺菌剤	数量	51,636	47,000	91
	金額	30,591	28,000	92
除草剤	数量	117,946	97,000	82
	金額	131,129	129,000	98
その他	数量	23,458	21,000	90
	金額	13,171	14,000	106
合計	数量	448,507	404,000	90
	金額	416,939	409,000	98

は、3,878千ha(対前年度比88.2%)となった。

事業の基幹である水稻部門は、実施延べ面積1,202千ha(同90.5%)、実面積は522千haで、水稻栽培面積の26.5%にあたり、関係農家数は658千戸、総農家数の27.2%を占め、年平均2.3回の散布が行われた。剤型別散布面積割合は、液剤94.7%(液剤散布47.9%、微量散布34.4%液剤少量散布12.4%)、粒剤4.6%、微粒剤0.6%となっている。

果樹部門は、リンゴの野そ駆除、クリの害虫防除など5千ha(同101.7%)であった。

畑作部門は、ムギ、ダイズ、サトウキビ等の病害虫防除など17千ha(同83.9%)であった。

畜産部門は、牧野の施肥など3千ha(同97.6%)となった。

ミバエ類等部門はミバエ類の侵入防止防除等が行われ、2,652千ha(同87.2%)の実績となった。

当初計画以外の緊急の追加防除は、水稻のいもち病が多発傾向にあった東北北部で1.5千ha実施され、また、今年問題となった果樹のカメムシについてはカキのカメムシ防除が九州で0.25千ha程、緊急追加防除として実施された。

無人ヘリコプターによる防除面積は、本年度水稻14.5千ha、ムギ類及びダイズ等1.6千ha、計147千haとなった。

### V 農薬の出荷状況

平成8農薬年度(平成7年10月～平成8年9月)における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では10%減の404千t・kl、金額では2%減の4,090億円程度と推定される。